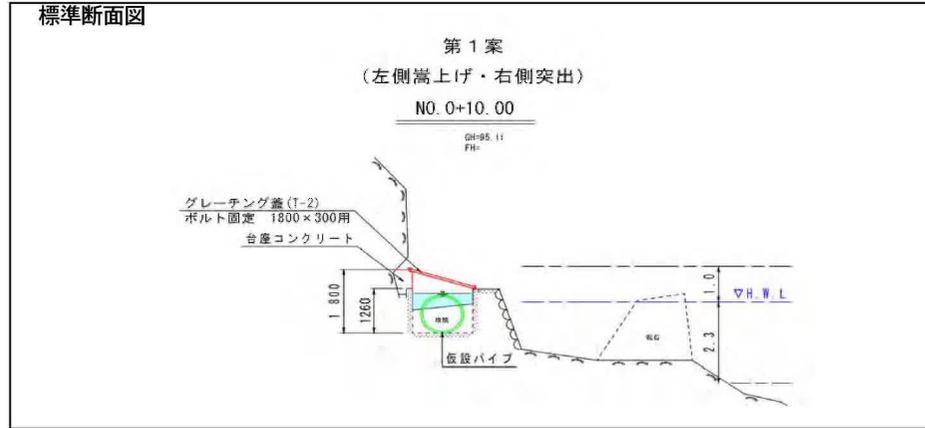
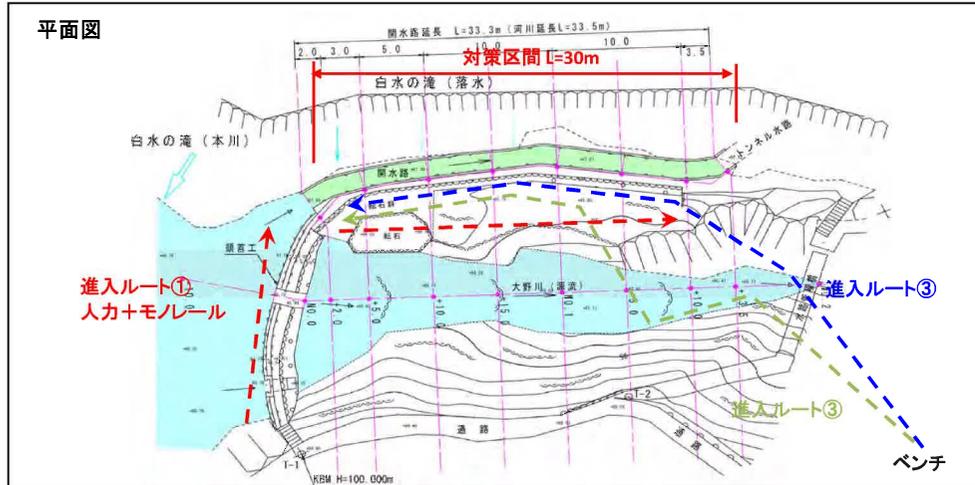




- 現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)**
- 景観維持・保全に耐えうる軽微な対策工
 - 対策規模に応じた資機材搬入 (モノレール運搬、河川横断部の資材運搬、人力運搬)
 - 現場条件を踏まえ、人力でも運搬可能な蓋掛け工を計画
 - 仮設足場の設置等、特に必要となる安全対策・措置
 - 落水対策として仮設工を設置、進入水によるCo打設が課題
 - 施工時の断水or必要最小限の流量確保 (土嚢による止水、仮設パイプによる導水)

- 設計条件**
- 景観への影響が少なく、地形改変の少ない対策工の選定
 - 人力・モノレール運搬 (小重量) にて施工が可能な工法
 - 落石に対して一定の効果が見込まれ、落水を補足する蓋構造
 - 今後の維持管理が容易となる水路構造



- 施工者からの意見及び対応方針**
- 改善事項
 - 水路天端にそのまま蓋を掛ける事はできないか。→ 内空1.8mは条件である。
 - 資機材の搬入が出来れば、人力作業で施工は可能である。
 - 人力運搬の場合、資機材の軽量化が必要である。
 - ・ コンクリート手練の場合、打設量10m3に対して、約400袋のモルタル材が必要。
 - ・ グレーチング蓋約120枚 50kg/枚 → 鉄筋等により代替は可能であるか。
 - 左岸側に水路と並行に足場を必要とする。
 - 人力運搬の場合、頭首工裏側に足場を必要とする。
 - 作業者の落水防護措置が必要である。(ブルーシートやベニヤ板等)
 - 確認事項
 - モノレール専門業者への確認を必要とする。→ 確認結果：設置は可能との事。但し、モノレールの積算に際しては、延長・傾斜などを必要とする為、ルート検討など測量を必要とする。
 - ※ 平面図に専門業者立ち合い時の想定ルートを示す。ベンチまでは設置可能。但し、河川内の削孔、汚濁、横断時の流木等に留意が必要。
 - 重機等の進入が困難であり、人力運搬も含め積算については見積対応とする
 - ※ 平面図に専門業者立ち合い時の想定ルートを示す。ベンチまでは設置可能。が必要となる。
 - 景観に配慮したグレーチング蓋の資料を送付するので参考とする。
 - 現状では、標準断面図の通り第1案を採用してよい。← 土地改良区回答